

「米海軍軍艦の小樽港入港に関する申し入れ」を実施

連合北海道は、米海軍掃海艦「パトリオット」が２月３日から７日、ミサイル駆逐艦「ベンフォールド」が２月５日から９日に小樽港に入港する計画について、１月２７日北海道、１月２８日在札幌米領事館に対し反対するよう申し入れを行った。



申し入れでは、友好親善を名目としているが軍事利用を目的としたものであり、自治体の戦争協力をなし崩しに進めるものであること、また、安全保障関連法成立後の入港は米軍との一体化を加速させるものであると指摘。さらに核弾頭搭載可能な艦船の入港は核兵器廃絶平和都市宣言を行っている小樽市民の意志に反すると訴えた。

これに対し、北海道志田篤俊危機対策局長は「港湾管理者である小樽市長の意向が尊重されるべきと考える。核兵器の搭載の有無については、外務省に確認しており、さらに今後、在札幌米国総領事館に対し、乗員の規律の厳正な保持と、事故防止に万全を期すよう要請する。」と述べた。連合北海道はこの回答に対し、「問題の根幹は日米地位協定にある。やはりこれを抜本的に見直すことが先決。」と指摘。これに対し道は「港湾利用は日米地位協定に基づいて行われるものであり、国の基本的な施策である外交・安全保障に関わるものであるが、今後も渉外知事会を通じて日米地位協定の見直しを要望していく」とした。また、在札幌米国総領事館は「要請のあった旨、米本国に伝える。」とした。